

クラス会だより

35期生同期会



去る三月六日(土)、聖光学院ポトラホールにて三十五期生同期会が催されました。今回はお世話になった平井先生がご退任まで一年というご縁で、田平先生が今年度までご退任なさるというお話を受けてのものです。また修士課程在学中の面々も遂に卒業を迎えるという、まさに時宜を得たという形となりました。山形や京都、大阪といった遠方からの参加者やトマス先生、工藤先生にもご参加いただき、九十名以上の大宴会となりました。会の中盤には幹事団有志によって制作されたショータイムも上映され、大いに盛り上がり、最後に高校三年の担任をされていた先生方から、これから社会へ羽ばたく同期生へのエールをいただきました。校歌を皆で歌い、一次会は盛会の内に幕を閉じました。また二次会にも六十名余が参加するなど三十五期の結束を再確認しました。さらに三次会、朝まで続いた四次会と続き、楽しい一夜を過ごすことが出来ました。最後にになりましたが、ショータイムの中に「聖光生であるということ」というコピーがありました。きつと何年経っても我々同期生が一同に会せば、あの頃のような気持ちになれるのではないかと、思わせられたことを付記しておきます。

31期生同期会

本年二月二十八日、三十一期生の同期会を聖光学院食堂で開催しました。総勢六十名ほどの参加でした。卒業からちょうど十年。入学時からお世話になった田平先生が、三月で定年退官されることから、田平先生への感謝と送別の意をこめての開催です。学年主任など一番お世話になった平井先生がご都合で欠席だったのは本当に残念でしたが、主役の田平先生他、今野、中澤、鈴木(敏)、佐野、森(孝)、荻江先生といった、三十一期がいろいろとお世話になり、そして多々なるご面倒を煩わせたであろう諸先生方にも、ご参加いただきました。毎年、三十一期は忘年会をしていて、よく会っている人もいますが、今回は、三十一期側もこの日のため



関西・北陸・東北など遠路はるばる来てくれた人、卒業以来に会う人なども多数参加してくれ、懐かしい顔がそろいました。最初はみんなお互い誰かわからず社交辞令的な話をしていたため、出席者全員からの近況報告卒業時から、太った人、痩せた人、意外にもかつこよくなった人など、

年2回のOB戦が楽しみ

野球部OB会

九一年十一月にスタートした聖光学院野球部OB会は、現在年二回(三月第三週の日曜日と十一月第一週の日曜日)のOB戦を軸にして、その他一回同窓会報と名簿の発行を行い、早いもので二年が過ぎました。その間元顧問の松崎先生のご逝去や二十八年ぶりの県大会優勝など様々な出来事がありました。相も



変わらぬOB会が続いているのはやはり皆が野球を好きだからだとつくづく感じています。また野球というスポーツが年を重ねてもそれなりの楽しみ方が出来るからだと思えます。このOB戦は集まった人々を偶数期と奇数期に分けて試合を行います。そして特別ルールとして守備は何回でも入り自由、打席は全員が順番に立つので選層に近い年代の方々でも楽しんでら

卒業生のお店紹介

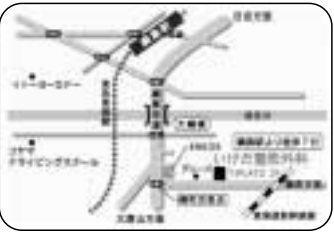
シリーズ
第12回
いけだ整形外科

11期生 池田 和男

私の専門は関節外科特(膝関節)とスポーツ整形外科で、勤務医生活の後半は、主に若い患者さんがスポーツ外傷などで膝を痛めたときの内視鏡手術とお室(入局)し、臨床研修医として働きました。その後、関東近辺の大学関連病院勤務を経て再び東京女子医大へ戻り、学位取得後講師となり、開業直前まで大



は、その地長崎で医学部生活六年間を送り、昭和五十七年卒業後、働き場所はやはり生まれ故郷(実家は神奈川県)に近い所と考え、東京女子医大整形外科学教室へ入局(会社員というところの入社)し、臨床研修医として働きました。その後、関東近辺の大学関連病院勤務を経て再び東京女子医大へ戻り、学位取得後講師となり、開業直前まで大



当院のモットーは「患者様それぞれの要望を尊重したカスタムメイドの医療を提供することによって、病気を治し、心を癒す」です。例えば、腰痛ひとつをとっても、さまざまな治療がありますが、(残念ながら)安全確実に効くなどという治療法はありません。外用薬(湿布、塗り薬)とリハビリ(背骨の牽引、温熱、低周波などの物理療法)だけの治療から、外来でできる手術の携わっており、無痛手術(痛みを伴わず)の注

に、その専門は関節外科特(膝関節)とスポーツ整形外科で、勤務医生活の後半は、主に若い患者さんがスポーツ外傷などで膝を痛めたときの内視鏡手術とお室(入局)し、臨床研修医として働きました。その後、関東近辺の大学関連病院勤務を経て再び東京女子医大へ戻り、学位取得後講師となり、開業直前まで大

に、その専門は関節外科特(膝関節)とスポーツ整形外科で、勤務医生活の後半は、主に若い患者さんがスポーツ外傷などで膝を痛めたときの内視鏡手術とお室(入局)し、臨床研修医として働きました。その後、関東近辺の大学関連病院勤務を経て再び東京女子医大へ戻り、学位取得後講師となり、開業直前まで大

に、その専門は関節外科特(膝関節)とスポーツ整形外科で、勤務医生活の後半は、主に若い患者さんがスポーツ外傷などで膝を痛めたときの内視鏡手術とお室(入局)し、臨床研修医として働きました。その後、関東近辺の大学関連病院勤務を経て再び東京女子医大へ戻り、学位取得後講師となり、開業直前まで大

30期生を中心としたサークルBA

三十期の若勇裕紀といひます。勝手ですがウチのサークルBAの自慢をします。今から三年以上も昔、このバスケットボールは生まれました。銀座の飲み屋で「何だかよ、俺たちってむいっも酒飲んでええな」と「おう、健康的なことしようぜ。昼間の遊び」。その会話から健康的なスポーツにつながり、友達が



友達を呼んで始まったので、BAの語源はボールアーツ。つまりボールを演じる集団なのです。本当かどうかは別にして、基盤になっているのは聖光の三十期の中でも「出来が悪い」と言われた面々、若勇にT君、H君、K君、A君などが在籍(各人の名譽の為にインシヤルにしてあります)。

実はこの五人、大学時代はそんなに連絡をとっていません。それが社会人になってまた集まる。思春期を過ぎたあとの六年間は凄く深かったということなのでしょう。多分、やっぱ仲いいもんね。この五人を中心にネズミ講式にメンバーは増え、今では五十名近くが在籍。年

り、都合がつかうときにはトマス前校長先生もよく来てくださりお話をしてくださいます。そして年一回発行の同窓会報「Hit & Run」も昨年の十七号から聖光学院のホームページに載ることになりました。なかなか住所がわからず送ることができないOBの人たちにも見てもらえる機会ができて良かったと思います。今後は現在発行している名簿にメールアドレスも載せ、OB同士の連絡がとりやすい形にしていきたいと考えています。野球部OBでメールアドレスをお持ちの方は次のアドレスへ期数を明記の上、送信してください。 mnon-ya@mx16.freemove.ne.jp (十三期 門家)